症例報告

東洋医学的生命観に基づく鍼灸：難治性不妊治療への取り組み

米山章子
ビッグママ治療室，神奈川，〒250-0003　小田原市東町

Acupuncture and moxibustion based on the Oriental medical concept of life：An approach to intractable infertility

Akiko Yoneyama
Bigmama-chiryoushitsu，Higashi-cho，Odawara-city，Kanagawa，250-0003，Japan

Abstract

The progress of infertility treatments has so far been strongest among Western medical treatments, particularly with the development of assisted reproductive technology providing solid support for couples trying to cope with infertility. Nevertheless, there are still many couples who do not become pregnant despite repeated treatment over many years and there are couples whose age makes treatment difficult. Such cases of intractable infertility do respond very well to treatment from an Oriental medical standpoint. This paper describes three cases in which acupuncture and moxibustion at this clinic resulted in pregnancy and birth, and discusses acupuncture and moxibustion treatment for infertility by pattern identification and treatment employing the Kanmoku (liver-wood) body concept. Western medical treatments for infertility were unsuccessful in these three cases, however, under the Oriental medical approach, with its holistic understanding and pattern identification and treatment employing the liver-wood body concept, the patients' vitality was increased. With continued acupuncture and moxibustion as well as dietary advice suited to each patient's physical constitution, holistic improvement was achieved, which enabled pregnancy and birth. The Oriental medical approach is a holistic approach that seeks to increase vitality, so it differs from the approach to infertility as a symptom：it is a therapeutic approach generated from the concept of increasing patients' vitality itself. Treatment of infertility based on this Oriental medical concept of life offers a new perspective on the treatment of infertility that is intractable under Western medicine.

要旨

現代の不妊治療では，西洋医学的な医療が力強く展開され，高度生殖医療なども日々発展し，不妊に悩むご夫婦の大いなるサポートとなっております。しかし，不妊治療に長い年月を重ねても妊娠できないケースや，高齢のため不妊治療が難しくなっているケースも多く見受けられます。これら難治性不妊に東洋医学的な観点に立った治療が大きな効果を上げることがあります。ここでは，当院の鍼灸治療で妊娠・出産にいたった３つの症例を取り上げ，肝木の身体観を用いた弁証論治による不妊鍼灸治療について考察し，振り返ってみました。この３つの症例は西洋医学的な不妊治療では困難な事例です。けれども，肝木の身体観を用いた弁証論治を行い，丸ごと一つの人間として心身を把握する東洋医学的な発想を使うことで，生命力を向上させるアプローチが可能となりました。個々の体質に合った鍼灸や養生指導を継続的に行い，患者さんの心身を導くことができ，妊娠・出産へとつながりました。全体観をもって生命力の向上に取り組む東洋医学的な発想は，不妊という症状からの発想とは距離をおき，患者さんの生命力そのものを高める発想の治療であります。これら東洋医学的生命観に基づく不妊治療は，西洋医学的に難治性となっている不妊治療において新たな視点・方策を提示・提供できるのではないかと思われます。

キーワード：不妊，鍼灸，東洋医学，身体観，弁証論治

Key words：Infertility, Acupuncture and moxibustion, Oriental medicine, Body concept, Pattern identification and treatment

目的

はじめに

現代の不妊治療では，西洋医学がファーストチョイスとされます。そこでは，タイミング指導，排卵誘発を中心とする治療，人工授精や，高度生殖医療を用いた体外受精，顕微授精などが順にステップアップされるような形で進められることが多く見られます。

しかし，このようにていねいで強力なサポートを西洋医学で受けていても，妊娠にいたらないケースが多々見られるということもまた事実です。そのような不妊症において，東洋医学的な観点に立った治療が大きな効果を上げることがあります。ここでは，いくつかの症例を通じて，東洋医学としてどのように貢献できるのか検討していくことにしました。

当院の現状

当院を受診される不妊患者さんの年齢と不妊治療歴について述べておきます。2013 年の不妊カウンセリング学会にて，2012 年 11 月時点で当院来院中の不妊治療から妊娠にいたった妊婦さん 16 名にアンケートを行い，鍼灸に対する意識を調査発表いたしました。その報告によると，初診来院時に 50％以上の方が 4 年以上の不妊治療歴がありました。ファーストチョイスとなる西洋医学的な不妊治療を半数以上の方が 4 年を超えて受診し続け，それでも妊娠にいたらなかった方々が不妊治療の次なる打開策として鍼灸治療を選択されているということがわかります。また，初診時年齢も 35 歳以上の方が 88％を占め，40 歳を超える方

も 25%にのぼりました。

このように，当院の鍼灸治療を受診希望される方は，不妊治療歴そのものが長く，そのうえ，妊娠率の低下，流産率の上昇が懸念される年齢になっている方が非常に多いということがわかります[4]。当院では，これら高い年齢，長い不妊治療歴など，妊娠の成立がかなり難しいのではないかと懸念される患者さんたちに対して鍼灸治療を行い，不妊治療に取り組んでいるわけであります。

今回は，症例下記３つを取り上げ，東洋医学的鍼灸が不妊治療に対してどのような貢献ができるのかを具体的に考察していきます。

症例１：30 歳，不妊治療歴２年以上。さしたる西洋医学的な不妊原因が見当たらず，排卵を多く促す治療を続けているが妊娠が成立しない。

症例２：43 歳，不妊治療歴３年。高度生殖医療を複数回行うも妊娠にいたらない。

症例３：44 歳，不妊婦人科治療歴４年。婦人科疾患のため７年たつが第３子が授からない。

症例

症例１　肝鬱を中心とした腎虚肝鬱

30 歳　女性　160cm　45kg

主訴：不妊，肩こり，生理不順

27 歳で結婚，周囲から子だくさんを強く期待される。西洋医学的な所見では女性側に大きな問題もなく，排卵誘発を行うことを中心とする不妊治療を２年以上にわたり行うものの妊娠できず。同居家族が多く，日々懐妊へのプレッシャーやストレスを感じ，体重が減少（この１年で 49kg から 45kg に減少），生理周期の遅延（以前は 30 日周期で生理が来ていたが，今は 30 日から 90 日とまばらになっている）が起こり妊娠できない。

体表観察：左肝の相火あり，右臨泣つまり，右の次髎つまり，三焦兪抜け，大腸兪から関元兪ざらざらした皮膚

弁証論治：肝鬱を中心とした腎虚肝鬱，疏肝理気・益気補腎

治療方針：肝鬱を動かすために腎気を補い，肺気を充実させて，理気を行う。

治療方法：初診

列欠（鍼ステンレス 15mm １番＋ミニ灸）
足三里（鍼ステンレス 30mm ５番灸頭鍼）
合谷・右申脈（ミニ灸）
三焦兪（鍼ステンレス 15mm ５番）
腎兪（鍼ステンレス 60mm ８番）
次髎（鍼ステンレス 50mm ５番＋温灸）

三焦兪・腎兪で腎の陽気を補い，その陽気を用い列欠・合谷を使い肺気を充実させる方向で理気する。２週間に１度の通院で，９診で自然妊娠，無事に出産。60 日間生理が来ない状態のまま排卵，そのまま自然妊娠，出産。第１子出産後は，なんの問題もなく，希望どおり第２子・第３子出産。

症例２　腎虚肝鬱・風邪の内陥

43 歳　女性　156cm　46kg

主訴：不妊

20代から肝鬱が強く，30代には仕事が多忙となり，ストレスも強く腎気への負担が増し，肝鬱がより強くなる。40歳から妊娠希望。病院にてタイミング指導，42歳から高度生殖医療を始める。５回ほど体外受精を行うものの妊娠できず。不妊治療専門クリニックからは，年齢要因から不妊治療が難しくなっているといわれる。現在，身体全体の調子が悪く，肩こりや足の冷えの症状が強くなると耳鳴り（高音），こむら返り，目が疲れやすい，眠りに入りにくい，眠りが浅くなる，なにかするとすぐに疲れてしまうなどの症状がある。

体外受精（顕微授精）胚移植の治療歴

１回目　卵が発育せず採卵できず

２回目　着床反応は出るも卵が育たず

３回目　採卵するも移植した卵は着床せず，培養した卵は桑実胚でストップ

４回目　採卵するも受精後分割せず

５回目　採卵するも受精せず

体表観察：右肺兪陥凹，右太淵発汗，左湧泉冷え，左復溜冷え，左腎兪陥凹

弁証論治：腎虚肝鬱・風邪の内陥[注1)]，疏風散寒・益気補腎・疏肝理気

治療方針：第一に風邪の内陥を取り去り，生命全体への負担を取る。腎気を上げることを第一とし，肝鬱そのものは治療目標としないが，場合によっては疏肝理気し調整する。

治療方法：初診

百会（直接灸７壮）

左外関・右臨泣（鍼ステンレス 15mm １番＋ミニ灸）

左三陰交（鍼ステンレス 30mm ３番＋ミニ灸）

左湧泉（ミニ灸）

大椎・肺兪（直接灸各６壮）

左胃兪・右三焦兪（鍼ステンレス 15mm １番＋温灸）

左腎兪・次髎（鍼ステンレス 60mm ８番＋温灸）

週に１度の鍼灸，自宅施灸は毎日。２週間後，６回目の体外受精で２つ採卵できた。胚移植するも着床せず，培養した卵は桑実胚で停止。３カ月後，７回目の体外受精採卵で４つ取れるも３つは培養途中で成長が止まる。１つ移植し妊娠成立。

12wk　胎盤が少し小さめといわれる

27wk　体重があまり増えない。スネや頬がこけてくる

37wk　胎児は 2,500g ぐらいはあるといわれた。腰痛や指のむくみなど出現

40wk　2,900g 弱で無事に自然分娩（45歳，第１子）

■ 症例３　腎虚を中心とした気虚

44歳　女性　170cm　55kg

主訴：不妊

若い頃から手足末端の冷えが強く，生理痛もきつかった。20代前半から何度も生理を止めて子宮内膜症の治療を行う。30代前半，第１子出産後から腎気が落ち，全身の気虚が進む。37歳，第２子の出産は無事に経過したものの，その後，気虚が進み，全身状態は悪化。首肩こりや下焦の瘀血が進み，子宮内

膜症が進行，大きな腫瘤ができている。何度も生理を止めて対応するものの，なかなか妊娠できない。

体表観察：右胃兪陥凹，身柱大きい陥凹，左三焦兪腎兪抜け，大腸兪やや陥凹

弁証論治：腎虚を中心とした気虚・瘀血，補気補腎

治療方針：腎気を中心として全身の虚損状態を救うことを中心とする。肝鬱や瘀血そのものを改善しようとしても，土台となる生命力があまりにも弱いため，肝鬱や瘀血の改善は望めない。今までも肝鬱・瘀血のある状況下で妊娠・出産が成立しているので，今回も補気し全身の気虚を救うことでご本人の希望である自然妊娠の成立を期待する。

治療方法：初診

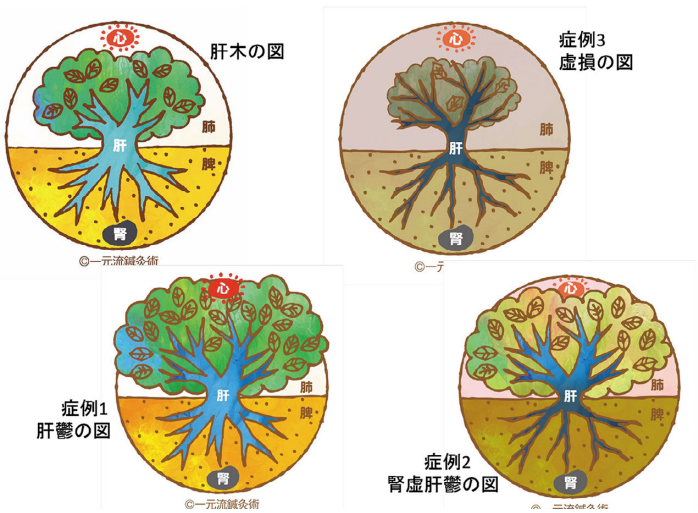
百会（直接灸７壮）
外関（鍼ステンレス 15mm １番＋ミニ灸）
三陰交（鍼ステンレス 30mm ２番＋ミニ灸）
湧泉（温灸）
三焦兪（鍼ステンレス 15mm ５番）
腎兪・次髎（鍼ステンレス 60mm ８番＋温灸）

腎の陽気を建て全身の気虚を救う。１～２週に１度の鍼灸治療，毎日の自宅施灸を行う。初診後，半年ほどで自然妊娠・出産。子宮内膜症から派生しているという腫瘤は大きくなる勢いは止まったものの，小さくはならず。首肩のこりや全身の疲れが少し回復したところで自然妊娠，無事出産（3,500g 弱）。

考察

症例からの考察

図1:4つの肝木の図



この４つの図（**図１**）は，健康的な充実した肝木に対するいろいろな変化を，肝鬱，腎虚肝鬱，虚損状態と，大きく３つに分けて表してみました。上記の症例１～３と合わせ考察していきます。

症例１　肝鬱の図（図１：症例１）

この肝鬱の図（図１：症例１）は，一見すると元気な木のようにみえます。しかしながら枝葉（肝陽）が密に充満し，上焦の鬱滞が強く，肝鬱の状態がみてとれます。脾腎の土台はしっかりとした状態ですが，上焦に鬱滞があるため風が気持ちよく全身をめぐることができず伸びやかさを失い，心の光はぎらぎらしてしまいます。強い肝鬱は全身の気の昇降出入に影響を与えます。鬱滞した枝葉をさあっと剪定し肝鬱を晴らすと，気の昇降出入がスムーズさを取り戻し，全体の気血の動きがよくなり，肝鬱によって影響を受けていた腎気・脾気も本来の機能を取り戻すことができます。

この症例１は，年齢も若く，取り立てて大きな不妊要因もなかった状況であったものの，周りからの「早く子どもを！」との期待が重くのしかかり，強い肝鬱が生じました。強い肝鬱は脾気へ影響し体重が減少，腎気へも影響し月経は遅延し，不妊となっていました。婦人科クリニックでは「さしたる不妊の原因がない。年齢が若い」ということにより排卵誘発などを行い，不妊治療を繰り返していましたが，なかなか妊娠にいたらず当院受診となりました。

肝鬱が全身に強く影響を与えていましたので，鍼灸治療にて枝葉を剪定するように肝鬱を払うことをしたところ，全体の気機がよくめぐり気の昇降出入がリズミカルに動き，脾気・腎気とも本来の力を取り戻すことができ，60 日間生理が遅延していたものの排卵後スムーズに妊娠することができました。

１人目出産後は周りからのプレッシャーもなくなり，肝鬱が強く生じることもなかったので，肝木は健やかに保たれ，第２子・第３子の妊娠・出産が滞りなく続きました。

妊娠は小さなステップの積み重ねで成り立つため，本症例のように，それぞれのステップには西洋医学的な問題がないケースでも，東洋医学的に考える「強い肝鬱」によって全体の気機の不調を引き起こし「不妊」の状態が作られたものと思われます[3)]。

「２～３回の鍼灸治療で妊娠した」「泣き晴らしたら妊娠した」「諦めたとたんに妊娠した」などというタイプの不妊は，この症例と同じように肝鬱が中心で引き起こされ，肝鬱が晴れることによってスムーズな妊娠につながったケースと思われます。長い不妊治療歴をもつ難治性不妊とされるものでも，時折このようなケースが見受けられます。鍼灸が一番力を発揮するタイプの不妊状態と考えられます。

症例２　腎虚肝鬱の図（図１：症例２）

この症例２は，若い頃から忙しい仕事を頑張ってし続け，40 歳を過ぎてから妊娠に取り組み始めた症例です。何度も高度生殖医療を繰り返しながらも，腎気の影響を強く受ける年齢要因が大きな障害となっていました。脾腎そのものの弱さと日々のストレスフルな生活によって生じる肝鬱によって悪循環を生じ，不妊状態になっていると考えました。腎気を上げ生命力をつけることで腎虚肝鬱の悪循環から抜け出すことを目標に，鍼灸治療を進めました。

腎気が建つことで，今までなかなか前に進むことができなかった高度生殖医療での治療がスムーズに展開し妊娠。まだまだ腎気不足を感じさせる妊娠中の経過でしたが，鍼灸でフォローし無事に 45 歳にて第１子の出産へとつなげることが

できました。

この腎虚肝鬱の図（**図１：症例２**）は，肝鬱の図と似ていますが，脾腎の土台に弱りがある図です。肝木の支えとなる脾腎の大地は痩せ，泉には水が不足しがちになっています。そのような貧弱な大地に根を張りながらも，上焦では肝気が枝葉を密に茂らせ，なんとか頑張って日々を乗り切ろうとしています。腎虚肝鬱の木は，下焦に負担をかけつつも，頑張って生きようとして肝気を張り，日々を乗り切ろうとしている木です。自らの状況を超えて頑張るので上焦では鬱滞を起こし，上焦の頑張りを支えるために脾腎にはより大きな負担がかかっています。

本症例では肝鬱そのものはあまり問題とせず，全身の負担となり悪循環に陥っている風邪を取り去り，腎気を建て生命力の底上げをすることを目標としました。43 歳という年齢もあり，高度生殖医療を用いた不妊治療を行うものの良好な受精卵が作れず治療が進んでいませんでしたが，腎気を中心に生命力が上がったことで治療が進み，妊娠にいたりました。

不妊治療においては年齢要因が非常に問題となります。これは腎と深くかかわっている問題です。「女性の生殖における腎気」の問題は，人の一生における腎気の盛衰よりも早く短く進行します。この症例でも，43 歳という年齢が高度生殖医療において問題とされました。また，目や頭脳など上焦を多く使い，デスクワークなどで足腰を使うことの少ない生活は，上焦の鬱滞，下焦の虚損を招きがちとなり，腎気への負担を大きくします。

人間は長らく月経開始後数年で出産するライフスタイルをもっていましたが，現代では月経開始から 20 年以上の年月を経て妊娠を望む方もいます。このことは，現代の不妊治療が取り組むべき大きな課題であると考えられます。

症例３　虚損の図（図１：症例３）

この症例３では全身の状況が，腎虚を中心とした気虚が強い状態でした。症状から細かくみていけば，瘀血や肝鬱，肺気の弱りなどたくさんの問題が噴出しています。これらの症状は全身の気虚が強いため起こっていることと考えました。個別の問題にこだわることなく，全身を少しでも健やかにすることがまず第一だと考えて治療を進め，その結果，腎虚を中心に全身の気虚を救うことで自然妊娠が成立し，出産にいたっています。

この虚損の図（**図１：症例３**）は気虚・気血両虚など，丸ごと一つの生命が全体に虚損が強いという状況を表した図です。脾腎の土台も痩せ，肝木の根もひょろひょろで，枝葉も勢いがありません。全体に薄暗く，全身の強い虚損状態を表現している図です。

人間は日々生きています。全身の虚損状態がきついなかにあっても，頭も使い，目も使います。生活のために手足を使って労働もしますし，次なる世代を産み落とすため排卵を起こし月経も起こります。生命力が充実していない状態で，これらもろもろの機能を果たすということは，さまざま場面において機能の低下と気血の鬱滞が生じ，それが諸々の症状となって現れていきます。そして全身の生命力が充実すれば，１つひとつの機能は十分に力をもって行われ，気血も伸びやかにめぐります。つまり，さまざまな症状それ自体が問題ではなく，全身の生命力の不足が問題となるわけです。

気虚・虚損が強い場合は，症状についてとらわれることなく，生命力の充実を

行うことが大切となります。

中心となる生命観　肝木の身体観

症例１・２・３では，全体を見通す東洋医学的生命観として，頑張って現代を生きる人間をとらえやすい肝木の身体観[1)2)]を使いました。肝木の身体観を土台とし，現代を頑張って生きる丸ごと一人の人間としてみる観点から弁証論治を行い東洋医学的な治療を施すことで，それまで西洋医学的な不妊治療を繰り返すも妊娠にいたらなかった症例を良好な結果へとつなげることができました。そこで，この肝木の身体観について考察します。

東洋医学的身体観はさまざまなパターンが提示されていますが，そのなかでこの肝木の身体観は，生きる意思を中心とした肝木を用い全体を表現しています。さまざまな社会的環境に対応して頑張って生きる現代人のありようをとらえやすく，全体の見通しをつけて把握し，不妊を考えるときにも用いやすくなっています。

図2：肝木の図

©一元流鍼灸術

この肝木の図（図２）は，丸ごと一人の人間を，大地に立つ１本の木で表現しています。渾々と泉湧く肥沃な大地に１本の木がどっしりと根を張り，清浄な大気に満ちあふれ，光ふり注ぐ天空に向かって枝葉を広げています。肥沃な大地にしっかりと張った根はそこから多くの滋養を受け取り，枝葉を揺らす風やあふれる光によって枝葉も滋養されます。大地に根を張り天空に枝葉を伸ばす木は，伸びやかにその生命を謳歌します。生きとし生けるものとしての人間が伸びやかにあるありようが表現されています。

この図（図２）をよくみると，肝心脾肺腎という５つの観点からとらえることもできます。大地は脾土。肥沃な大地が望まれます。渾々と水が湧く泉は腎。生命の土台となる泉です。光あふれる天空は心肺。清浄な大気と光の満ちた天空です。脾腎の大地にしっかりと根（肝陰）を張り天空に枝葉（肝陽）を伸ばすのが肝です。

脾腎の大地に根ざし，心肺の天空に枝葉を伸ばす１本の肝木。人間は肝心脾肺腎それぞれのパーツがより集まって構成されているのではなく，丸ごと一つの存在があり，その存在をよく診て観察するために５つの概念を設定しているということがみてとれます。丸ごと一つの人間を，脾腎の大地に肝陰の根を張り天空に向かって肝陽の枝葉を広げる「生きる意思をもった存在とみる身体観」が肝木の

身体観です。

肥沃な大地に張った根から受け取った滋養は昇提され，全身を養います。充実した根と健やかな枝葉をもった肝木は，全身の気機を伸びやかに主ります。光あふれ風がそよぐ天空はまた豊かな雨を降らせ大地を潤します。丸ごと一つの人間として充実した命の存在があります。

現代人は，忙しい時間軸のなかを生きています。目や頭を使うことが多くストレスフルな日常のなか，足腰を使う機会も減りがちです。肝木の枝葉が鬱滞しやすく，脾腎の大地に負担がかかりやすい状況がみてとれます。また，生殖年齢も遅れがちであり，腎気そのものも弱り始めた時期に妊娠を希望しています。そういった状況のなか，「生きる意思」を強くもち，肝気を張り，頑張って生きていく人間が，現代を生きる人間の特徴でもあるでしょう。

不妊における東洋医学の位置づけ

現代の不妊治療では患者さんは，東洋医学的な手法だけでなく，現代的な不妊治療も選択肢となりえます。不妊治療を望まれる患者さんと相対する場合には，現時点での東洋医学的な手法のよさや限界，現代的な手法のメリット・デメリットも考える必要があります。

肝木の身体観で丸ごと一つの人間としてとらえ，また特に妊娠について考えるときには，下焦や肝腎について特にスポットをあてて考えることもできます。

図3：妊娠を中心とした下焦の図

この図（図３）は，生殖に大きくかかわる下焦について，肝と腎を中心に場を設定してあります。この場には３つの大きな側面があります。

A：生命の土台としての腎

生命の土台としての腎は，卵をはぐくみ，受精卵を受けとめ成長を促し，出産までしっかりと胎児を滋養する存在です。生命の土台の力ですから，簡単には充実させることができませんが，この充実こそが，現代の難治性不妊に対応できる力強い応援となります。

Ｂ：伸びやかな心身を作る肝

肝は伸びやかな心身を作ります。この部分は鍼灸が非常に得意とする部分でしょう。小さなステップの積み重ねで成り立つ妊娠にとって，精神的・肉体的な負担により生じた肝鬱は，このステップの積み重ねへの大きな障害となります。また，肝鬱そのものも腎気に負担をかけ，妊娠の成立を阻みます。肝鬱の上手なコントロールは不妊治療の要となります。

Ｃ：卵管―精子の旅，受精卵の旅

この部分は器質的障害となりますので，東洋医学が不得意とする部分です。器質的障害を力強く救う現代の高度生殖医療を含む西洋医学的な不妊治療が大いに力を振るう部分でありましょう。

妊娠をみていくと，このようにＡ，Ｂ，Ｃと，大きく分けて３つの重要な側面から考えることができます。東洋医学的な全体観をもつ人間理解は，目の前の患者さんの個別具体的な不妊状況に対して何が必要なのかを考えるヒントになります。弁証論治によって明らかにされた個別具体的な状況により，鍼灸が得意なところ，漢方が役立つところ，自宅での養生を中心とした手入れが役立つところが明確になります。

また，東洋医学では力が及ばない部分，西洋医学が必要な部分もはっきりさせることができます。不妊治療に取り組む患者さんにとって，どのような手段がご本人の希望である妊娠に近づくためによいか理解しやすくなります。

症例１では，伸びやかに生きる肝であるＢに抑圧がかかった症例です。鍼灸が力を発揮しやすい症例であると考えられます。

症例２では，Ｃの卵管―精子の旅ができていないのではないかという懸念があり高度生殖医療の選択が望まれましたが，Ａ・Ｂの要因が不妊治療の進行の妨げとなっていました。Ｃの要因を救う治療を選択しつつ，東洋医学がＡ・Ｂの問題に対応することができたため妊娠出産へとつなげることができたと思われます。いわば東洋医学と西洋医学との合作ということになるわけです。

症例３では，重篤な婦人科疾患が進行するなかでの妊娠希望でしたが，過去の第１子・第２子が同じ状況下で成立していますので，Ａの腎気不足を中心に生命力を上げることで妊娠が期待されるのではないかと考えアプローチしたことで無事に妊娠にいたったものです。

結語

丸ごと一つの人間理解が不妊治療の要諦

症例１・２・３より，東洋医学的な不妊治療では，丸ごと一つの人間として目の前の患者さんを理解し弁証論治を行い治療を進めることにより，難治性の不妊であった症例においても妊娠・出産が成立する可能性があるということを提示いたしました。

全体観をもった東洋医学的な発想での不妊治療は，西洋医学的には難治性となっているような長い不妊治療歴や高い年齢での不妊治療において，新たな視点を提示することができます。このことによって妊娠・出産につながる新たな方策

を考えることができるでしょう。

部分的症状としての不妊そのものを問題としたアプローチではなく，不妊という観点からは一歩引き，全体を眺めて人間を理解し，その問題解決へと向かう東洋医学的な発想が，不妊治療に貢献できるところは非常に大きいと思われます。また，全体観をもつうえで，今回示した肝木の身体観を用い弁証論治を行うことは，人間理解の力強い道具立てとなるでしょう。

「不妊」だけが存在するのではなく，丸ごと一つの生命をもった一人の人間の訴えのなかに不妊がある。不妊そのものから読み解くのではなく，まず全体の生命がどうなっているのかを読み解き，そののちに「不妊」の位置づけをしていく。東洋医学の伝統的な生命観を使い，弁証論治で丸ごと一つの人間を読み解くことで，西洋医学的に難治性不妊とされるものにも力を及ぼすことができます。

また，生命力を上げることで妊娠にいたる東洋医学的な観点を不妊治療に積極的に取り込むことができれば，医療介入もより少なくなる可能性もあるのではないかと考えます。

注

1）本人は風邪を引いているという自覚はないが，問診や体表観察から風邪の罹患が疑われる状態。切診としては，風邪の内陥が浅い場合は風門肺兪の発汗や太淵・列欠の発汗，風門・肺兪の削げ落ちなど。

文献

1）伴尚志著：一元流鍼灸術の門．たにぐち書店，東京，2004.9，191
2）藤本蓮風監修：臓腑経絡学ノート．たにぐち書店，東京，1991.2，309
3）米山章子著：不妊！大作戦．たにぐち書店，東京，2008.8，20-82
4）米山章子：不妊から妊娠出産へ，鍼灸治療でフォローできること．日本不妊カウンセリング学会，Vol.12 No.1：51，2013